

木葉小便り

令和5年1月11日(水)発行

文責 校長 吉野 新吾

玉東町の未来を創造するために



千支 うさぎ(木葉猿察元)



いい学校がいい地域を作り、
いい地域がいい学校を作る

明けましておめでとうございます。木葉山からの玉東町の景色(1月4日)です。小学校の屋根の色が新しくなりました。正月明け、グランドゴルフのご婦人から「学校便り読んでいますよ。学校の様子がよくわかりますよ。いつもありがとうございます。」とありがたい言葉をいただきました。本年も玉東町立木葉小学校は、温かい地域に支えられた学校づくり、そして未来に向けた人づくりに努めて参ります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。もちろん、合言葉は “そこに 愛は あるんか?” です。

熊本県作文コンテスト入賞 おめでとう

令和5年1月6日(金)熊本市で第72回“社会を明るくする運動”熊本県作文コンテスト入賞者表彰式がありました。5年生の上村 百叶(ももか)さんの作文「駅員さんが教えてくれたこと」が熊本県小学校長会会長賞(小学校の部)を受賞し、表彰状が授与されました。

毎日「おはよう。」「おかえり。」のあいさつを続けてくれた木葉駅の駅員さんからあいさつのすばらしさを学んだという温かい内容です。地域の中でのあいさつの向上を目標に掲げる本校にとって価値のある作文です。

(作文を裏に付けています)



表彰状を受け取る上村さん

「できない言い訳」を考えている頭で

「できること」をやろう! 「トヨタ式仕事術より」

本年度も残り3ヶ月です。1年生は2年生へ、6年生は卒業そして中学生への準備が始まっています。その学年でやるべきこと、身に付けておくべきことを済ませて次の学年へと進級してもらいたいものです。学校としては、「働き方改革」が叫ばれる時勢です。限られた時間の中で、“やれることから 一歩でも踏み出す”意識を持ち、何事もポジティブに進めていきます。

努力する人は希望を語り、
怠ける人は不満を語る。



作家 井上 靖さんの言葉です。

駅員さんが教えてくれたこと

五葉町立木葉小学校 5年 ^{えむちから}上村 ^{ももか}百叶

「おはようございます。」

「おはよう。」

今日も正気に一日が始まります。

わたしは、四年生の時、あひだつをするのが苦手でした。どうしてかという、はまかりかたからです。だから、人からあひだつをされても返すことができませんでした。

ある日、道徳の授業であひだつについて学びました。そのとき、先生が

「みなさんは、地りきの人にあひだつをしていますか。あひだつをする、心がホカホカしますよ。」

とおっしゃいました。それを聞いたわたしはドキッと思いました。自分は、あひだつができていなかったからです。

と、あひだつを返すことができました。何だかうれしくなりました。

そして、五年生になった今は、駅員さんにあひだつをすることが楽しみになっています。

「おはようございます。」「こんにちは。」と言っただけなのに、なぜか楽しいのです。先生が言っていた「心がホカホカする。」の意味が、今は分かる気がします。

このことは、あひだつを返すことができなかったわたしに、毎日「おはよう」「おかえり」のあひだつを続けてくれた駅員さんが教えてくれました。あひだつをしてもあひだつを返さないとイヤな気もちがあると思います。しかし、駅員さんは、そんなわたしをイヤな人だとは思わず、毎日あひだつをしてくださいだったので。

あひだつが苦手になくなった今、次はわたしがあひだつをばらしたを周りに伝えていけるよう、自分からすすんであひだつをしていきたいと思っています。

次の日の朝、学校に向かうときに、毎日通る木葉駅の前で、駅員さんから笑顔で

「おはよう。」

と、言われました。わたしも鼻息を出してあひだつをしようとしたけれど、なぜかあひだつができませんでした。あひだつは返したほうがいいとわかっているのに、あひだつをすればよかった、と後から後悔しました。

そして、別の日、今度は学校から帰るときに駅員さんが、

「おかえりなさい。」

と声をかけてくれました。そのとき、わたしは、しみじみしながらも

「こんにちは。」

